

平成 20 年 11 月 12 日

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会
会長 宮田 温巳 殿

白馬村長 太田 紘熙

九月議会冒頭の村長挨拶への抗議と質問に対する回答

議会冒頭のあいさつは、国、県の動向や、時節の出来事を交えて私の感じたことや考え方を述べ、白馬村の事務事業の進捗状況、実現させたい政策などを語っているものであり、単に一言一句を取り上げて批判することは如何なものかと思えます。

従って貴会からの質問に対して総論で回答させていただきます。

ごみ処理広域化計画については、平成 9 年に「ごみ処理に係るダイオキシン類発生防止等ガイドライン」の策定を受け、平成 10 年に「大北地域広域市町村圏ごみ処理広域化計画」を策定するとともに広域化処理の検討を重ねた結果、広域処理することを善として大町市、白馬村、小谷村の 3 市村で共同処理する計画を進めてきたもので、その時々に必要な事項については、広域連合議会や白馬村議会に報告し承認・議決を経てきたものと思っています。また、説明会の内容、雰囲気について限られ時間内ですべての会場の詳細は語れません。私を感じたことを要約して語ったものであります。尚、会議録については所管部署に問い合わせさせていただきたい。

建設候補地の選定手法は、ゴミ処理広域化基本計画や広域化推進協議会の検討経過を踏まえつつも、広域連合として責任ある手法で選定がなされ、飯森地区が最もふさわしいと判断する旨の報告を受けたところです。従って選定結果については、尊重しそれが実行できるよう努力することは当然と考えます。

不幸にして飯森地区が NO となった場合は広域連合に戻すことが筋との考えは変わっておりませんが、白馬村から施設が無くなつては困るとの思いを抱いている村民も実在していることは事実であります。

既存施設の維持管理状況については、2 順目説明会でも説明しているとおり、白馬山麓清掃センター 20 ヶ年施設重要整備計画は、主要な装置や機器類の一式交換サイクルを検討したもので平成 32 年までの稼動を前提としたものでありません。年々維持管理が増加傾向にあることも担当者が説明したはずですが。

村民の理解を得て政策を実現していくためには、村民の不安を拭う努力のため誘い教え導くことも必要と考えています。今は、飯森地区が唯一の候補地としてその実現を目指して取り組むべきと考えておりますので、貴会からもご理解がいただければ幸いです。

なお、回答が遅れましたことお許しください。